

「2019年香港中文大学サマースクール（中国語コース）派遣参加報告書」

京都大学経済学部 2回 竹内勇貴

① 学習成果について

三週間、午前と午後に集中的に中国語を学ぶことによって中国語の運用能力は間違いなく向上した。私が選択した Level2 の授業では、授業ほとんどを中国語で行い英語の使用はわかりにくい部分の補足的なものにすぎなかったため特にリスニングの能力をつけることができた。これは日本で勉強しているだけではなかなか身につかないことなので、大きく成長できた部分だと思う。また休憩時間に中国人の先生と中国語で会話をすることもあったが、その際に単語が出てこなかったり発音が正確でなかったりして上手く表現できなかったこともあったのでその点が今後の大きな課題である。三週間の現地での中国語の授業の他にも、日本で中国語の会話練習を行った。プログラムの前後で中国語学習のモチベーションも上がり、自習時間が増加した。

② 海外での経験

今回のプログラムでは三週間、授業の時間以外は自由に行動できたため香港の様々な場所に行くことができた。香港では逃亡犯条例に関するデモが広範囲で行われており、大学構内や街中に張り紙があったりデモによって公共交通機関が停止したりするなど大きな騒動となっていた。デモの場所には近づかないようにしていたため直接的に影響を受けることはなかったが、香港居住者のデモに対する熱を感じた。

③ プログラム内容

今回のプログラムでは、8月4日から24日までの三週間、午前と午後に各2時間30分程の授業を受ける。中国語のクラスは学習進度別に Level1 から Level4 までに分かれて授業を行う。Level1 では中国語を全く学習したことのない生徒向けに、発音やピンインから勉強することができる。Level2 からは授業はほとんど全て中国語で行われ、教科書を使いながら先生と会話の練習も行う。普段の授業のほかに麻婆豆腐やエッグタルトの料理教室や習字の授業などを受けることができ、中国の文化を体験することができる。また、香港中文大学の学生と互いの文化について英語でプレゼンテーションをしあうことで交流を深めることもできた。このプログラムには日本以外にもシンガポールやヨーロッパ諸国からも留学生が参加しており、授業や寮で一緒にいる時間が多いので英語で交流するいい機会にもなる。

④ 進路への影響

私は経済学部部に所属していて、進路は専攻している経営学を生かして企業経営に携わることを希望している。将来、中国の経済的影響はますます拡大していくため、実際に中国で仕事をすることや日本で中国人と一緒に仕事をする機会は必ずある。そうした中で、中国語でコミュニケーションをとることができるようになることは大きなメリットとなるため、今回実際に中国語での会話を練習することができたのは進路においてもいい影響があった。